

〔釋名^三釋姿容〕伏覆也、偃安也

僵正直置然也

〔倭訓栞^{前編二十六}不〕ふす 伏臥をよめり、神代紀に、俯順^{フシテフシテ}俯視など見えたり、俯の音を用ゐたるに

や、万葉に拜をよめり、義同じ、

〔日本靈異記^上〕凶女不孝、養所生母以現得惡死報緣第廿四

故京有一凶婦、姓名未詳也。^略時其母有稚子、携之還家、俛視道頭、有遺裏飯、拾之慰餓、猶勞寢室。^中

俛^{伏也}

〔今昔物語^{三十一}〕打臥御子巫語第廿六

今昔打臥ノ御子ト云フ巫世ニ有ケリ。^略何ナレバ此ク打臥ノ御子トハ云フゾト思ヘバ、打臥

ノミ物ヲ云ケレバ、打臥ノ御子トハ云ケル也ケリ、

〔枕草子^九〕とみにもたち給はねば、袖ををしあて、う。つ。ぶ。し。ゐ。たる。も、からぎぬにしろいものう

つりて、まだらにならんかし、

〔めのとのさうし〕人のかほもち大事に候げ、しく人はぢたるさまに、う。つ。ぶ。きたるもわろし、ま

たさしあふのきて、かほふりあげたるもわろし、

〔倭訓栞^{中編二十}波〕は。ひ。ぶ。し。物語に見えたり、這臥の義也、

〔枕草子^五〕此下わらびはてづからつみつるなどいへば、いかで女官などのやうにつきなみては

あらんなどいへば、とりおろして、れいのはひぶしにならばせ給へるおまへたちなればとて、と

りおろしまかなひさはぐほどに、^略下

〔續古事談^{王道后宮}〕河内前司重通ト云者、童ニテ西宮ニアリケルニ、ミチアシカリケル所ニ、アユ